

鷄肉情勢

項目

1. 国内

内容

(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和6年10月末実施)によると、9月の推計実績は処理羽数60,741千羽(前年比100.0%)、処理重量179.6千トン(同101.7%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は2.3%の上方修正となり、処理重量は2.4%上方修正となった。関西エリア・南九州エリアが特に前月時点から大きく数値が伸びており、酷暑の影響を折り込んでいたものの、実際は熱死や低体重の発生はそれほどなく、増体がある程度進み改善されたと推測する。

(2) 10月の計画処理羽数・処理重量ともに前年を上回る予想となっており、前月予想から処理重量ベースで変更は無い。しかし、10月に入り寒暖差が大きくなり、熱死事故が発生した産地も一部あるようだ。11月については、土・日・祝日が前年と同じ10日間ではあるが、処理羽数・処理重量ともに前年を下回る見通しだ。9月の入雛羽数が落ち込んだことも影響していると考え。今夏は酷暑だったため種鶏の成績が落ち込んでいたとの情報もあったが関係があるかは不確かだ。高病原性鳥インフルエンザの影響は数値に折り込まれていないと考えられるため、国内の発生状況によっては今後影響が出るのではないかと。工場の人員不足については外国人技能実習生が都市部への就業に集中していることに加え、来日が遅れている産地が一部あるようだ。また、従業員の高齢化もあり人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や機械で加工することが難しい手羽中半割といった加工品の調整を行っている産地もあるようだ。この傾向は暫く続く見通しだ。

供給

2. 輸入

内容

(1) 財務省10月30日公表の貿易統計によると、令和6年9月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲7.6千トンの49.1千トン、国別ではブラジルが前月▲8.8千トンの33.0千トン、タイが+1.3千トンの15.3千トンとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、輸入量は10月が54.9千トン(前年比114.8%)、11月は50.4千トン(同128.6%)となっている。ブラジルの産鶏肉の輸入量が増加する見通しだ。直近では為替が不安定であるものの、国産含めた国内需要が堅調であることから輸入量が増加しているようだ。食料品全般の値上がりや消費者の生活防衛意識の高まりなどから、比較的安価な輸入鶏肉の需要が増加することを見越し、積極的に在庫を抑えている業者もあるようだ。ただし、不透明な為替動向や他国の輸入状況次第では状況が変化する可能性はある。

(2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から+0.1千トンの39.9千トンで国別では中国が+2.2千トン、タイが▲2.1千トンとなった。前年同月実績40.8千トンの差は▲0.9千トンとなり、前年比では下回る結果となった。国内の働き手不足やコロナ禍が明けた影響による外食筋の回復、共働き世帯の増加に伴う中食・総菜向け等の引き合いも継続している。冷食関係でも輸入鶏肉を使用したメニューが増えており、鶏肉調整品自体の需要も高い水準を維持している。しかし、コスト高もあるため輸入量が今後急増することは考えにくい。

(3) 財務省が10月30日に公表した貿易統計によると、9月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より▲2.7%となった。解体品の国別価格は、ブラジル産の輸入価格が302円/kg(前月比▲4円)、タイ産が419円/kg(同▲13円)となっている(国別平均価格)。前月から価格が下落したのは為替が円高に推移したためではないだろうか。鶏肉調整品の重量は中国が前年同月より12.3%増加、タイが11.1%減少した。

需要

1. 家計消費

内容

(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和6年9月の生鮮肉消費(購入)は数量4,169g(前年比103.0%)、金額6,309円(同100.5%)と、重量・金額ともに前年を上回った。鶏肉は数量1,526g(同107.2%)・金額1,467円(同98.7%)・単価96円/100g(前年同月▲8円)と、数量は前年を上回ったものの、金額・単価は前年を下回った。これは購入単価が高いモモ肉から比較的安価なムネ肉へシフトしたことや、ディスカウントストアなどの価格が低く抑えられた店舗での購入機会が増加したためではないだろうか。調理食品が金額12,519円(同102.0%)、外食が15,480円(同112.8%)となっている。畜産の購入数量は牛肉・鶏肉が前年を上回り、豚肉が前年を下回る結果となった。輸入品含めた牛肉・豚肉の高騰が続いたことから安価な鶏肉へのシフトが進んでいると推察される。調理食品は共働き世帯の増加に伴う需要は底堅いようだ。外食においては、ほぼコロナ禍前の水準程度まで回復したものの、統計外となるインバウンドによる集客もあることからエリア・業態によって濃淡があるようだ。

需要

2. 量販・卸

内容

(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和6年9月の食品売上高は全店ベースで前年比103.3%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同103.7%、既存店ベースは同102.5%となった。また、畜産部門の売上高は約1,175億円で全店ベース同102.7%、既存店ベース同101.3%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、「一般的に相場高が継続しており、特に輸入肉の高騰による影響を指摘するコメントが多い。牛肉は、三連休が1回多い影響か、銘柄牛が前年を超過した店舗がみられた。豚肉は相場がやや落ち着き回復傾向。比較的值ごろ感のある鶏肉への需要シフト傾向は続いており、ひき肉や小間切れなどの低価格商品もよく動いたとのコメントが多い。鍋関連は気温が高く、動きが悪かった。加工肉は全般的な高値傾向で苦戦が続いている。」とコメントがあった。安価な商品に需要が集中している傾向は変わらないようだ。

需要

3. 業務・加工筋

内容

(1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和6年9月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比97.2%の4.6千トンとなった。うち国内品は同103.1%の3.6千トンと前年を上回り、輸入品については同80.1%の1.0千トンと前年を下回った。

在庫

1. 令和6年9月

内容

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の9月末時点推定期末在庫では国産33.2千トン(前年比110.3%・前月差▲1.9千トン)、輸入品136.5千トン(同103.0%・同▲1.4千トン)と合計で169.7千トン(同▲3.3千トン)となった。

在庫

2. 見通し

内容

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、9月の出回りは国産137.9千トン(前年比100.1%・前月差+7.5千トン)、輸入品50.5千トン(同102.7%・同▲1.9千トン)と合計で188.4千トン(同100.8%・同+5.6千トン)となった。前月からは国産の出回りが増加し、輸入品が減少している。国産の増加については、土・日・祝日が前月よりも1日多かったことに加え、他畜肉含めた輸入品の高騰による需要シフトが発生した影響ではないだろうか。9月以降の在庫については年末用の凍結在庫確保が進んでいない業者が多く、一時的に増加していくと予想する。輸入品についてはブラジルからの輸入量が増加する見通しのため、在庫は増加するものの、外食筋・加工筋の引き合いがあるため、急増することはないと推察される。

相場

1. 令和6年10月動向

内容

(1) 令和6年10月の月平均相場は、モモ肉652円/kg(前月差+25円)・ムネ肉379円/kg(同+11円)正肉合計で1,031円/2kgと前月を36円上回り、前年同月を13円上回った。モモ肉相場は月初627円、月末は668円となり(昨年は月初634円、月末655円)、前年の相場を上回った。生産においては、一部産地で温度管理ミスで熱死事故が発生していたが、概ね順調だったようだ。販売についてはモモ肉が量販店など好調なこともあり年末用の確保が進んでおらず、卸業者間での融通も難しくなっているようだ。ムネ肉については輸入食品全般の価格高騰等から加工筋向けの引き合いが強まっており、量販店での動きも活発化している。副品目については量販店における店頭価格が他畜種と比較すると安価なこともあり動きは良いようだ。輸入鶏肉については先々の需要増・コスト高を見越して在庫確保を積極的に行う業者がいるため安価な商品が殆ど出回っていないと聞かれる。

相場

2. 見通し

内容

(1) 10月の生産量は前述にもあるように処理重量ベースで前年を上回る計画であり順調であったと考える。11月については生産・処理動向調査では処理羽数・処理重量が前年を下回る見込みとなっており、種鶏の成績悪化に伴う入雛の遅れではないかと考える。販売は好調であり、集荷が難しい場面が直近でも頻発している。家計調査を見ても牛肉→豚肉、豚肉→鶏肉への需要シフトは継続して進んでおり、消費者の生活防衛意識の高まりから安価な商品へ需要が集中することが予想される。輸入鶏肉については過去4ヶ月(5-8月)の出回りに対して国内の在庫量が2.6-2.9ヶ月分あるが、前年もほぼ同水準であることから極端に増加している訳ではない。国内の堅調な需要から輸入量・在庫量ともに増加していると考え。11月のモモ肉相場は上げの月平均680円、ムネ肉相場は月平均390円と予測する。例年通り年末に向けて鶏肉相場は上昇傾向に推移していくと考える。

(2) 11月12日(火)現時点では養鶏場・家きん農場における鳥インフルエンザは8例発生している。肉用鶏は北海道と宮城県で2例、採卵鶏は6例発生している。2023年シーズン1例目は11月25日(土)佐賀県鹿島市、2022年シーズン1例目は10月28日(金)岡山県倉敷市、2021年シーズン1例目は11月10日(水)秋田県横手市で発生しており、例年よりも早く発生している状況だ。今後の発生状況次第では国産鶏肉の需給および鶏肉相場へ影響が出ることは避けられないだろう。

実績

生産状況

単位:千羽、千トン、%

	R5年累計(推計)		R6年9月推計実績		R6年10月計画		R6年11月計画		R6年12月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	784,087	101.2%	65,401	96.3%	71,087	99.9%	64,081	100.4%	68,567	98.0%
処理羽数	743,734	100.9%	60,741	100.0%	64,558	101.7%	62,888	99.9%	67,049	98.3%
処理重量	2,240.5	101.0%	179.6	101.7%	193.9	101.5%	190.2	99.3%	205.7	99.3%

※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMIN」

輸入動向

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R6年5月	53.3	51.7	103.0	40.8	35.4	115.0	94.0	87.2	107.9	56.6	43.4
R6年6月	49.4	57.7	85.6	42.6	39.7	107.2	92.0	97.4	94.4	53.7	46.3
R6年7月	51.8	46.7	110.9	47.5	39.5	120.2	99.2	86.2	115.2	52.2	47.8
R6年8月	56.7	56.0	101.3	39.8	40.4	98.6	96.5	96.3	100.2	58.8	41.2
R6年9月	49.1	48.4	101.6	39.9	40.8	97.7	89.0	89.2	99.8	55.2	44.8

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8
R6年5月	1,569	1,485	105.7	1,585	1,530	103.6
R6年6月	1,568	1,455	107.8	1,524	1,492	102.1
R6年7月	1,385	1,361	101.8	1,411	1,422	99.2
R6年8月	1,399	1,363	102.6	1,427	1,411	101.1
R6年9月	1,526	1,424	107.2	1,467	1,487	98.7

※参考資料: 総務省統計局HP「家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)」

相場(年別・暦年)

単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010
R5年	730	395	1,125

在庫状況(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R6年5月	36.3	29.3	123.6	131.0	127.5	102.8	167.3	156.8	106.7
R6年6月	36.7	28.6	128.4	133.1	133.6	99.6	169.8	162.2	104.7
R6年7月	35.5	30.6	115.9	133.6	129.6	103.1	169.1	160.2	105.5
R6年8月	35.1	32.0	109.7	137.9	133.3	103.5	173.0	165.3	104.7
R6年9月	33.2	30.0	110.3	136.5	132.5	103.0	169.7	162.5	104.4

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

出回り量(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年累計	1,683.1	1,685.4	99.9	563.3	604.1	93.3	2,246.5	2,289.5	98.1
R5年累計	1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2
R6年5月	146.0	140.7	103.8	49.3	43.7	112.7	195.3	184.4	105.9
R6年6月	142.3	142.1	100.1	47.3	51.6	91.8	189.7	193.7	97.9
R6年7月	141.0	131.7	107.1	51.3	50.7	101.1	192.2	182.3	105.4
R6年8月	130.4	132.3	98.6	52.4	52.2	100.2	182.8	184.5	99.0
R6年9月	137.9	137.7	100.1	50.5	49.2	102.7	188.4	187.0	100.8

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R6年7月	613	709	86.5	355	398	89.2	968	1,107	87.4
R6年8月	613	674	90.9	359	383	93.7	972	1,057	92.0
R6年9月	627	646	97.1	368	374	98.4	995	1,020	97.5
R6年10月	652	649	100.5	379	369	102.7	1,031	1,018	101.3
R6年11月	(680)	673	101.0	(390)	374	104.3	(1,070)	1,047	102.2
R6年12月	(700)	691	101.3	(390)	377	103.4	(1,090)	1,068	102.1

※()は見通し